

第8回8020童話賞

児童生徒の部「最優秀賞」作品

「僕の歯は太陽のかけら」

中学 3年生

「おはよう」

皆が次々にやってきた。

ここは幼稚園バスの集合場所。

「ぐずぐずしないでバスが行っちゃうわよ」

背中を押されるように僕は歩いた。

昨日から、ぐらぐらとする歯が気になって気になって、仕方がない。

「おさむくん、おはよう。」

大好きなあゆみちゃんが手を振ってくれた。

僕も思い切り手を振り返したいけど、右手はしっかりと口の中の歯をいじっている。

双子のとしくんととしみちゃんは、ママの両手を一人ずつしっかりと握ってやってきたのを見てみると、後から

「どうしたのおさむくん」

とまなみちゃんが声をかけてくれた。

答えたかったけど、今、手はずしたら、大事な歯がなくなってしまういそだからこわい顔を上げてママを見たら、

「おさむはね。昨日から歯が抜けそうなの。

気になって、さわってばかりいるのよ。」

とまなみちゃんに話してくれた。

ちょうどバスが着いて、順番に乗り込んだ。

「おさむどうしたんだよ」

としょうくんが言った。するとまなみちゃんが大きな声で、

「おさむくんの歯が抜けそうなんだって」

と叫んだ。バスの中はおさむ君の歯の話題ばかり。

幼稚園について、上ばきにはきかえる時は、あゆみちゃんが手伝ってくれた。

カバンはかちゃんが机の横にかけてくれた。先生が

「おさむくんどうしたの?」

と言うとまなみちゃんが大声で説明してくれた。すると先生が、

「大丈夫よ。皆も抜けるのだから。」

と言った。みんなが一斉にぼくを見た。

「おさむくん痛い?」

「おさむくんこわい?」

と聞かれている気がした。おにごっこもできなかったし、歌もうたえなかった。

けいくんやしょうくん、みっくん、としくんが楽しそうにサッカーをしている。

とても淋しかった。

お弁当の時間になっても右手は口の中。

としみちゃんがお弁当を並べてくれた。

「歯が抜けたらどうなるの」

とあゆみちゃんが言った。

「血がいっぱい出る」

とお兄ちゃんがいるしょうくんが得意気に話す。

「穴があくんだよ」

とみっくん。

「痛いよね」

とかよちゃん。

「ドラキュラみたいにキバが生えてくるんだよ。何でも食べちゃうおばけになってしまうんだよ。」

とけいくんが言った。

ぼくは恐くなって

「そんなことないもん。いじわるを言うな。」

と言った瞬間、右手から離れた歯がポロッと地面に落ちた。

「おさむ君の歯が落ちた。」

教室はパニック状態になった。

ゆき先生があわてて拾ってくれた。

おさむくんの机の上に小さな歯が置かれた。

先生はおさむくんに言った。

「おさむ君の歯は、生まれかわるんだよ。新しい歯が、下からゆっくり生えてくるよ。今

「度の歯は永久歯だから、大事にしないとね」

「先生、永久歯って何」

「大人の歯だよ。今生えている歯より、少し大きくて、今度は抜けないんだよ。」

「先生、大事にするって」

「新しい歯はもう生えないから虫歯を作ったり折ったりしないように大切にしておいてほしいの」

「先生、おさむ君の抜けた歯はどうするの？」

「そうね。先生のお母さんは上の歯が抜けたら、土の中に埋めて、下の歯が抜けたら屋根に投げなさいって言ってたわ。」

「ぼくの歯は下の歯だよ。」

「先生がおさむくんの歯を袋に入れてあげるからお母さんと相談してね。」

「帰りのバスの中も大さわぎ。」

「土に埋めた歯から根が生えてじゃがいもになる」

とか

「土の中は歯でいっぱいになる」

とか皆、勝手な想像をふくらませている。

ちよっとだけ血が出たお口にティッシュをあてたおさむくんが、バスの中からママに手を振った。先生がママに説明してくれた。

ママは、おさむくんの手を握って歩きはじめた。

「おさむの歯はお家の屋根をめぐけて投げようね。うれしいね。大人の歯が生えるんだって。毎日歯を磨いて大切にしようね。」

「ママ、僕の歯は屋根の上でどうなるの？」

「お日様の光に溶けるんだよ。今まで有難う。というおさむの感謝の気持ちを抱いて新しいエネルギーに生まれ変わるんだよ。」